

令和6年能登半島地震 環境省応援派遣チームとして

第2班（R6.2.18～2.25）

活動報告

豊中市健康医療部保健安全課 獣医師

派遣先について

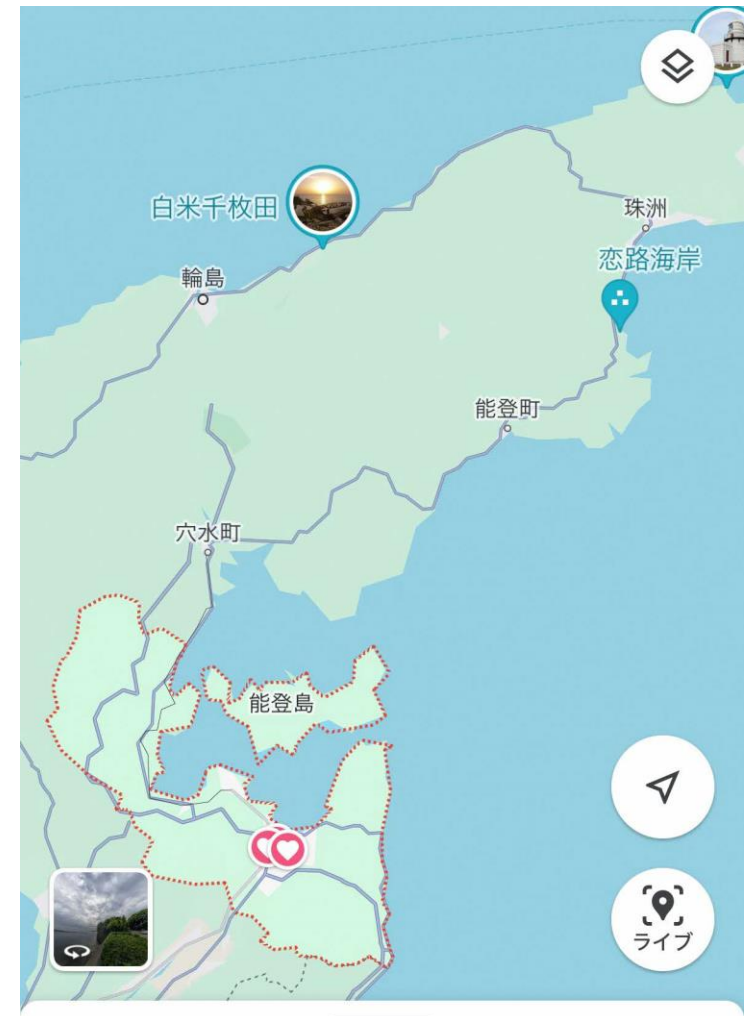
- 派遣先は石川県七尾市にある「能登中部保健福祉センター」
- センター2階に環境省の派遣チーム本部設置。
県の獣医師の災害対応業務応援という形での派遣であった。
- センターの建物に大きな被害はなし。
- 派遣時、断水は解消済みで、トイレは水洗も使用できるようになっていた。



環境省
災害動物支援チーム
事務室

七尾市とはこんなところ

- 七尾市の位置は右図参照（赤点線枠内）
人口5.3万人
水道が復旧したのは、2月の中旬
- 市街地でも道路の陥没や隆起、ひび割れが多数
- 古い町並みが残るエリアでは、建物被害も大きかった



七尾市

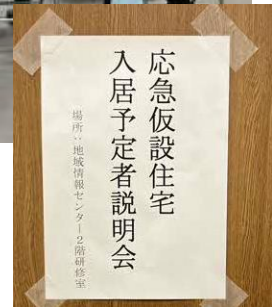
支援内容

2月下旬の派遣での主な業務は以下の通り。
避難所から仮設住宅へ住まいを移す、少し前の
段階のフェーズでの業務であった。

- ①仮設住宅入居者説明会向け資料作り
- ②仮設住宅のペット巡回に向けた資料作り
- ③仮設住宅の建設進捗状況の管理
- ④放浪動物の捕獲と世話、ホームページ管理
- ⑤仮設住宅建設現場の確認、避難所視察



仮設住宅入居者向け
説明会



収容犬のお世話



仮設住宅建設現場の確認

被災地で生きる動物たち

珠洲市・飯田公民館（ペット同伴避難所）



NPO主導で立ち上げられたペット同伴避難所。
それぞれの家族に1つのテントが用意され、ペットと
飼い主が同じテント内で過ごすことができる。

飼い主が留守にする間は、公民館前のコンテナハウス
で一時預かりが行われていた。
空調管理された犬専用コンテナ、猫専用コンテナが
あった。

避難所によって、ペットが過ごす場所は様々だった。

珠洲市・飯田公民館前（ペット一時預り所）



輪島市・志賀町の避難所



門前町の避難所



能登中部保健センターに収容された野犬



能登半島地震でのペットの避難について

- ペットの「同行避難」の普及啓発は未だ不十分な状況であったといえる。それは、「各避難所に最初に到着したグループが、その避難所のルールを作っていた」という現地の声からも見て取れる。その独自のルールのために、ペットとの避難がかなわず、車中泊や家に戻ることを選んだ方もいたようだ。
- 東日本大震災で起きた動物の様々な問題を教訓に、国がペットの同行避難を推奨し始めたのは、すでに10年以上前のことであるが、東日本大震災で起きていた問題が、本震災でも同じように起きていることを実感した。
- 避難してきた方は、すでに相当のストレスや苦痛がある中で、制限の多い避難生活を開始することとなる。
ペット専用の同伴避難所というのは、アレルギー等の健康被害、鳴き声等のトラブルを避けることができ、何よりペットを飼っている方が安心して避難所での避難を選択できるという点で、有益である。
- 災害は、その種類や規模・場所、季節や時間によっても一様には計れない。だからこそ、「ペットを飼っていない人が避難してくる」と同様に「ペットを飼っている人が、ペットと共に避難してくる」ことを忘れてはならない。

能登半島から見た立山連峰

